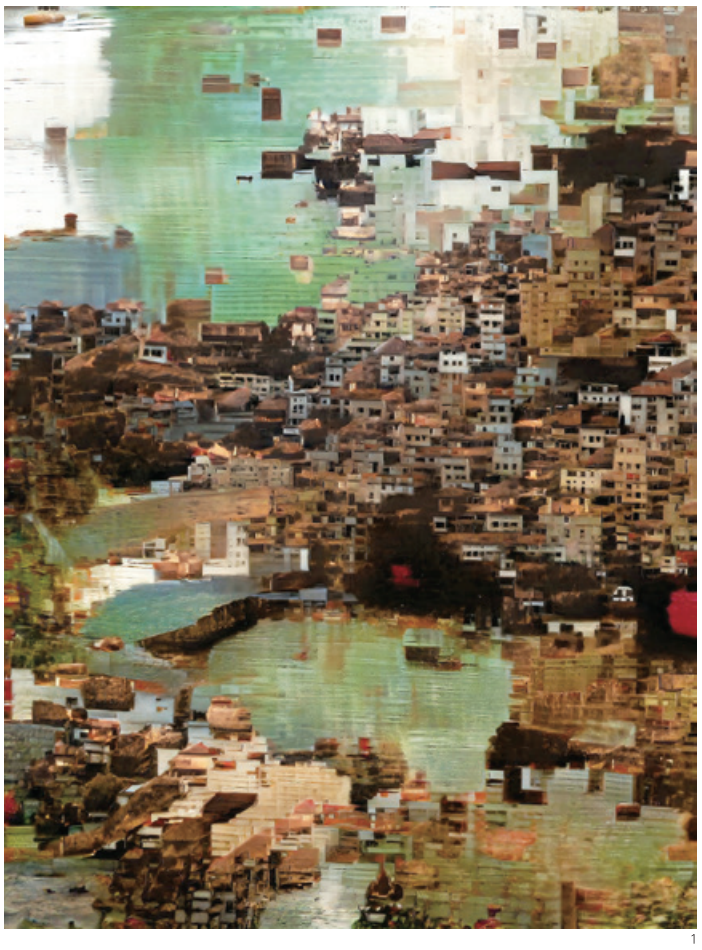
ふたたびくみたてる

日本の新進作家 vol. 23

インタビュー



1

Assembling Anew: Memories, Materials, Context, Technology
Contemporary Japanese Photography vol. 23

| 3F | 2026.9.30(水) → 2027.1.17(日)

市田小百合
苅部太郎
野村在
橋本麦
藤倉麻子



2

INTERVIEW

写真・映像分野の新しい才能にスポットを当てる「日本の新進作家」展。23回目となる今年の展覧会タイトルは「ふたたびくみたてる」です。生成AIの登場で、これまで写真・映像の特質とされてきた「証拠性」が問われるいま、改めて写真とは何か、映像とは何かを考えるきっかけになる展覧会です。企画者である東京都写真美術館の山﨑香穂学芸員に、展覧会のコンセプトと内容について訊きました。

《それは＝かつて＝あった》への疑問

── 今回のテーマ「ふたたびくみたてる」は、山﨑さんにとって、東京都写真美術館で単独でキュレーションする初めての展覧会だそうですね。どのように着想されたのでしょうか。

山﨑: 最近の私の関心事のひとつに、写真や映像の「証拠性」があります。写真や映像は被写体を必ず必要とするので、証拠として扱われてきた歴史があります。ロラン・バルトは著書『明るい部屋』で、写真の本質を《それは＝かつて＝あった》と表現しました。写っているものは、撮影の瞬間にたしかにカメラの前に存在した、ということです。

しかし、証拠性への疑問はネガティブに捉えられるばかりではないと思います。《それは＝かつて＝あった》という記録や事実を疑うだけでなく、作家たちが写真・映像を「組み立てていく」アプローチは広がりを見せています。



3

── タイトルの「ふたたびくみたてる」がすべてひらがななのはなぜでしょうか。

山﨑: 構築するという意味での「組み立てる」だけでなく、文脈を「汲む」という言葉をかけたかったからです。素材や記憶を一度ほどいて組み立て直すという意味と、同じイメージでもどの文脈に置かれるかで印象が変わってくる、という視点で作品を鑑賞してほしい、という願いを込めました。

5名の作家たちが「くみたてる」もの

── 出品作家のみなさんについて教えてください。展示順に、まずは野村在さんから。

山﨑: 野村さんは、先ほどお話しした「写真の証拠性」を直接的に扱っている作家です。作家が集めてきた過去のポートレイト写真などを燃やし、その炎の光や燃えている瞬間を長時間露光で記録した作品です。写真に写ったイメージは燃やすことで失われますが、そこに被写体が存在したという事実は消えません。野村さんは、燃えていく過程そのものを長時間露光で撮影し、その時間の経過をガラスにUV硬化型インクジェット・プリントで定着させています。写真が燃えていく時間がガラスの支持体に圧縮されて残る、という作品です。

── 次に展示されている苅部太郎さんはどのような作品ですか?

山﨑: 野村さんが「存在の痕跡」を見ているのに対して、苅部さんは、私たちが見たものをどう意味づけし、読み取っているのか、に揺さぶりをかけています。テレビの受信部を意図的に接触不良にし、グリッチノイズを発生させ、その結果画面にでたブロックノイズを撮影・加工し、生成AIに認識させて生成したイメージです。

── AIの誤認識を利用した作品なんですね。

山﨑: はい。AIは学習したデータからそれに似たイメージを取り込んで画像を生成するわけですが、それは人間が星を見て星座を見立てたり、雲を見て動物に見立てたりするのと同じです。人間の視覚システムと、AIの認識プロセスを対比させることで、私たちの視覚と認識との関係を問い直しています。展覧会のメインビジュアルに使った作品(図版1)もそのひとつで、パッと見ると水や池のように見えますが実は違う何かかもしれない。自分は何を見てどう判断しているのかを考えながら見ていただくと面白いと思います。

── 続いて、市田小百合さんの作品について教えてください。

山﨑: 市田さんはこれまで身体をテーマにした作品が多かったのですが、今回は〈空席〉というシリーズで、廃校になった学校で撮影した写真を、黒板の上にシルクスクリーンでプリントした作品です。廃校になるということは、かつてそこにいた子供たちの声や校舎が失われていくことです。市田さんはそれを写真で記



4

録してから一度解体し、学校のシンボルである「黒板」の上に組み立て直しています。かつて存在した学校という場を、展覧会という新しい文脈に置き直すというアプローチが今回のテーマにぴったりだと思います。

── 次の藤倉麻子さんの作品は映像ですね。

山﨑: 藤倉さんは、風景ができあがっていくプロセスを描いています。実写の映像と3DCGを組み合わせて「オープンサンライズシティー」という架空の都市を作り上げていくのですが、完全な空想の都市ではなく、実際に東京近郊の建設現場などを撮影した実写映像が元になっています。藤倉さんは、建設現場だけでなく、そこで使われる資材の採取地や製造施設にも足を運んでいます。作品に登場する煉瓦、鋼材からは、普段目にしている都市がさまざまな素材や人の手によってつくられていることが見えてくるはずです。架空の都市では、住民たちが日干し煉瓦をつくり、壁を積み上げながら、都市を形づくっており、実写と3DCG、現実と物語が重なり合いながら、ひとつの風景が生まれて変化していくその過程にぜひ注目していただきたい作品です。

── 最後は橋本麦さんです。

山﨑: 橋本さんは、これまでミュージックビデオやアニメーションの制作などで活躍されてきました。美術館で展示をすることに戸惑いもあったようなのですが、今回は会期中に展示室で「公開制作」を行っていただきます。

── 展示室で新作がつくられていくのですか?

山﨑: 展示室が橋本さんの制作現場となり、工作機で削ったものをコマ撮りで撮影していきます。会期中に、3分程度の映像作品ができあがっていく予定です。

── 会期の初めに来たら、完成版が観られないんですか?

山﨑: 会期の初めは撮ったコマ数が少ないので、随時更新される映像を見られるように、会場で配布する作品リストに二次元コードを掲載します。ウェブサイト上でプロセスを追って、見るたびにくみたてられるイメージを楽しむことができます。



5

見ているものが正しいのかという問い

── お話を伺っていると、AIやデジタル技術を用いながらも、最終的には「事実」や「そこにあったもの」の強さがベースにあるのが興味深いです。

山﨑: 写真や映像の証拠性が揺らいでいると言われますが、実際には元となるものがあって、それをもとに私たちが何をどう認識しているのか、見ているものが本当に正しいのかを考えることが大切だと思います。そういう認識プロセスを意識しないと、AIで作られた偽画像などにすぐ騙されてしまいます。

── 写真・映像をどう認識するかを問う作品が集められ、スケール感のある展覧会になりそうですね。

山﨑: みなさん大きなサイズの作品を展示されますし、美術館という場所でイメージがどう提示されるか、空間に入って体感していただきたいです。現代の写真や映像の表現がどうなっているのかがわかっていただけると思います。

(インタビュー:タカザワケンジ)

[1] 苅部太郎《あの海に見える岩を、弓で射よ #30》2022年 インクジェット・プリント 作家蔵 ©Taro Karibe [2] 藤倉麻子《4 Tales of Open Sunrise City》2025年 2チャンネル・ヴィデオ・インスタレーション 作家蔵 ©Asako Fujikura ※参考図版 [3] 野村在《バイオフォトンはかくも輝く(黄色の海水パンツを履いてサングラスをした口髭の中年男性と白色のビキニを着た同年代の女性、海水客で賑わうビーチ、サンディエゴ、1980)》2026年 ガラスにUV硬化型インクジェット・プリント、ステンレス金具 作家蔵 ©Zai Nomura [4] 市田小百合〈空席(Kūseki)〉より 2025年 黒板にシルクスクリーン・プリント 展示風景:「ふたたびくみたてる 日本の新進作家 vol. 23」東京都写真美術館 2026年 撮影:新井孝明 Originally commissioned through the Jerwood/Photoworks Awards, supported by Jerwood Foundation, Photoworks and Arts Council England [5] 橋本麦《Milling Stop-Motion (tentative title)》2024年- 2チャンネル・ヴィデオ・インスタレーション 作家蔵 ©Baku Hashimoto ※参考図版

ふたたびくみたてる 日本の新進作家 vol. 23

Assembling Anew: Memories, Materials, Context, Technology
Contemporary Japanese Photography vol. 23

3F 9.30(水) → 2027.1.17(日)

東京都写真美術館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するとともに、新しい創造活動の展開の場として、2002年より継続的に「日本の新進作家」展を開催しています。写真や映像は、物事を写し、残すメディアです。しかし、写し取られたイメージは、編集や置かれた文脈によって異なる意味を帯びることもあります。そのため、ときに存在しない/しなかった記憶や記録さえも想起させます。イメージのなかの見えるものと見えないもの、実存と虚構、存在と不在の境界線は、ますます曖昧になりつつあり、揺らぎを内包しています。第23回目となる本展では、作家たちが実際に存在した記憶や素材、技術、それぞれが持つコンテクストを汲み取り、新たなイメージへと組み立てていくプロセスに着目します。真偽に惑わされることの多い日常において、私たちは情報とどのように向き合い、何を信じ、どのように世界を捉えているのか。本展では、その問いを改めて考える契機となる作品を紹介します。

展覧会ページから、
作家のインタビュー動画を
ご覧いただけます。

| 観覧料 | 一般700円ほか 各種割引あり | 主催 | 東京都写真美術館、東京新聞 | 協賛 | 東京都写真美術館支援会員

関連イベントは当館ウェブサイトをご覧ください

eyes Vol.127
2026
TOP MUSEUM
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM NEWS MAGAZINE

東京都写真美術館

開館時間　10:00–18:00（木・金は20:00まで）※入館は閉館30分前まで
休 館 日　毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館）、12/28–1/1、1/18–2/4

公式ウェブサイト

EXHIBITION

B1F

2026 12/1（火）▶ 2027 1/17（日）

岡田敦｜幻の馬
Yururi Island 1950–2026

Okada Atsushi | Phantom Horses
Yururi Island 1950–2026


岡田敦《Yururi Island, August 2013》
〈ユルリ島の馬〉より 2026年 作家蔵 ©Okada Atsushi

“ロスト・ワールド”という言葉は、コナン・ドイルが著した、断崖に囲まれた人跡未踏の台地に絶滅したはずの動物たちの王国があったという空想小説のタイトルですが、ユルリ島という無人島もまた、立ち入りが制限されて人は近づけません。ここには人知れず馬たちが、それも雌馬だけが暮らしています。雌馬だけとなった群れは誕生の可能性を持たず、1950年に島に移入された馬の子孫は岡田が撮影を始めた2011年には10数頭、そして今は2頭にまで減りました。この展覧会で見られる写真に刻印されているのは、いわば蝋燭の炎が消えんとする瞬間の揺めきです。

｜観覧料｜一般1,200円 ほか 各種割引あり
｜主催｜株式会社シー・エム・エス　｜共催｜東京都写真美術館　｜企画・制作｜岡田敦写真事務所

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

2F

2027 3/6（土）▶ 2027 6/6（日）

北野謙
Kitano Ken

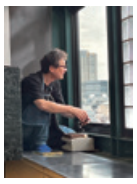

北野謙《フォルクバルケン トロムソ ノルウェー No.1
2025年7月–2026年7月》〈光を集める〉より
2025–2026年 作家蔵

現代写真家・北野謙（1968–）の公立美術館で初めてとなる本格的な個展です。本展では、日本、ハワイ、赤道直下のインドネシア、北極圏ノルウェーなど世界各地にカメラを設置し、約半年から1年間という極端に長いシャッター速度で太陽の軌跡を捉えた〈光を集める〉シリーズと代表作の展示によって、作家の活動の本質に迫ります。

現在、東京都写真美術館では、3台のカメラを設置し、2026年夏至から冬至までの（約180日間）の長時間露光の撮影を行っています。完成した作品は、2027年3月からの本展に出品予定です。ぜひご期待ください。

当館SNSでは、北野謙〈光を集める〉プロジェクトの撮影カメラ設置動画を公開しています。「超・長時間露光」撮影で太陽の軌跡を追ってきた作家が、太陽と風景画の関係について語ります。

「太陽の黒点が少ないと、雲が増えて光が減り、気温が下がる」?


東京都写真美術館での撮影準備の様子（2026年6月15日設置）

｜観覧料｜一般800円 ほか 各種割引あり
｜主催｜東京都写真美術館

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

SCHEDULE

3F	2F	B1F	1F
ふたたびくみたてる 日本の新進作家 vol.23 企 9.30(水)–2027.1.17(日)	デュエット ── アジアン・コンテンポラリー 企 9.30(水)–2027.1.17(日)	木村伊兵衛写真賞 第50回記念写真展 誘 10.31(土)–11.23(月・祝)	1F上映および展覧会の最新情報はこちら
		岡田敦｜幻の馬 Yururi Island 1950–2026 誘 12.1(火)–2027.1.17(日)	
恵比寿映像祭 2027　2.5(金)–2.21(日)			
3階展示室のみ 2.5(金)–3.22(月・振)	北野謙 企 3.6(土)–6.6(日)	APAアワード2027展 誘 2.27(土)–3.14(日)	東京都内の美術館・博物館等をお得に見られる「ぐるっとパス」詳細はこちら▶
		ハービー・山口 誘 3.20(土)–5.23(日)	

企企画展　収収蔵展　誘誘致展

NEWS

TOPのお正月2027

開催期間：2027.1.2(土)–3(日)

さまざまなイベントをご用意してみなさまのご来館をお待ちしております。詳細は決定次第、当館ウェブサイトでお知らせします。

2つの展覧会が観覧無料に！
3F「ふたたびくみたてる 日本の新進作家 vol. 23」展
2F「デュエット ── アジアン・コンテンポラリー」展

雅楽演奏「とっぷ雅楽」
日時 1月2日(土) 13:00–／15:00–
2階エントランスロビー、鑑賞無料



── TOPボランティアによるオープンワークショップ 暗室での現像体験

暗室で現像を体験してみませんか。デジタル画像をもとにしたネガで、モノクロ写真をつくります。今まで美術館に来たことがない方、写真をつくったことがない方も大歓迎です。申込不要、当日ご自由にご参加いただけます。
[開催日時] 2027年1月16日(土)13:30–17:00
[参加条件] 小学生以上（小学4年生以下は必ず保護者同伴）　[料金] 無料

── 手話による動画や、やさしいことばのガイドで展覧会を紹介しています

「ふたたびくみたてる 日本の新進作家 vol. 23」展では、ろう者による日本手話と、日本語字幕の動画を、「デュエット ── アジアン・コンテンポラリー」展では、やさしいことばで書いたガイドを用意しています。各展覧会ページからもご覧いただけます。はじめてTOPに来館される方もぜひチェックしてみてください。



図書室の臨時休室について

2027年1月12日(火)– 3月31日(水)の期間、閉架書庫の修繕工事のため臨時休室します。

フロムトップ　1F CAFE

「まるごとりんごのコンポートのデザート」秋田県さとう果樹園さんのりんごをまるごと赤ワインでコンポートにしました。さわやかなヨーグルトクリーム、ミルクアイスとご一緒にどうぞ。


1,200円（税込）+ワンドリンクオーダーをお願いします

[営業時間] 10:00–18:00（木・金は20:00まで）
[TEL] 070-8591-3730　[定休日] 美術館の休館日に準じます

NADiff BAITEN　2F SHOP

展覧会の開催に合わせて、品揃えがガラリと変わるミュージアム・ショップ。トイカメラで大人気のロモグラフィー社のカメラが入荷しました。小ぶりでかわいいデザインのカメラを持って、撮影に出かけてみてはいかがでしょうか。

LomoApparat 21mm
13,800円（税込）
Half-frame Lomourette
9,880円（税込）



[営業時間]
10:00–18:00（木・金は20:00まで）
[TEL] 03-6447-7684
[定休日] 美術館の休館日に準じます

ホール　1F HALL　12/15–27上映［休映日 12/21］

ヴィック・ムニーズ／ごみアートの奇跡　詳細はこちら▼

「芸術で世界を変える!」現代芸術家ヴィック・ムニーズが、ごみ山で集めたガラクタで、巨大ポートレイトのモザイク画を制作していく…。ひとりのアーティストの決心が、世界最大のごみ処理場で働く人々の人生をアートで輝かせていく感動のドキュメンタリー。



支援会員

次の企業・団体のみなさまに東京都写真美術館の活動を支援会員様としてご支援いただいております。

特別賛助会員
キヤノン（株）
全日本空輸（株）
（株）ニコン

賛助会員
キヤノンマーケティングジャパン（株）
（株）資生堂
大日本印刷（株）
TOPPAN（株）
富士フイルム（株）

特別支援会員
アイコニア・ホスピタリティ（株）
アサヒグループホールディングス（株）
サッポロ不動産開発（株）
サッポロホールディングス（株）
東急建設（株）
ピクテ・ジャパン（株）

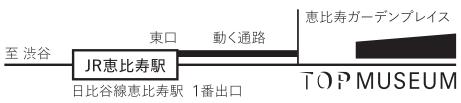
支援会員
あいおいニッセイ同和損害保険（株）
（株）アイネスト
アイング（株）
アオイネオン（株）
（株）アクト・テクニカルサポート
（株）浅沼商会
（株）朝日工業社
朝日新聞社
（株）朝日新聞出版
朝日生命保険（相）
（株）アフロ
（株）アマナ
（株）アンカーネットワークサービス
（株）岩波書店
（株）潮出版社
（一財）AVCC・霞が関ナレッジスクエア（KK²）
（株）エージーピー
SMBC日興証券（株）
SB C&S（株）
（株）NHKエデュケーショナル
（株）NHKエンタープライズ
（株）NHK出版
（株）NHKテクノロジーズ
エルメス財団
0Mデジタルソリューションズ（株）
大森クローム工業（株）
カールツァイス（株）
花王（株）
鹿島建設（株）
カトーレック（株）
（株）KADOKAWA
神奈川新聞社
カルチュア・コンビニエンス・クラブ（株）
（株）企業変革創造
（株）キクチ科学研究所
（株）キタムラ
キッコーマン（株）
（株）紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷（株）
共同カイテック（株）
（一社）共同通信社
空港施設（株）
（株）久米設計
グローリー（株）
（株）ケー・アンド・エル
ゲッティイメージズジャパン（株）
興亜硝子（株）
（株）弘亜社
（株）公栄社
（株）廣済堂
（株）講談社
（株）光文社
（株）国書刊行会
（株）コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー（株）
佐川印刷（株）
三愛オブリ（株）
産経新聞社
サントリーホールディングス（株）
（株）ジェイアール東日本企画
（株）JTB
（株）シグマ
（株）時事通信社
（株）実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設（株）
（株）写真弘社
写真の学校／東京写真学園
シャネル（同）
（株）集英社
シュッピン（株）
（株）小学館
松竹（株）
信越化学工業（株）
（株）新潮社
（株）晋遊舎
（株）スタジオエムジー
（株）スタジオジブリ
（株）SUBARU
住友生命保険（相）
（株）住友倉庫
（株）生活の友社
セイコーグループ（株）
双日（株）
ソニー（株）
損害保険ジャパン（株）
第一生命保険（株）
台新國際商業銀行
大和証券（株）
（有）タカ・イシイギャラリー
（株）髙島屋
（株）竹中工務店
（株）タニタ
（株）タムロン
（株）丹青社
（株）中央公論新社
中外製薬（株）
（株）築地製作所
T&Dフィナンシャル生命保険（株）
（株）TBSテレビ
（株）デサン
（株）テレビ朝日
（株）テレビ東京
（株）電通
東亜建設工業（株）
東映（株）
（株）東京印書館
弁護士法人東京笠井法律総合事務所
東京工科大学/日本工学院
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
（株）東京スタデオ
東京造形大学
東京綜合写真専門学校
（株）東京ダイケンビルサービス
東京建物（株）
東京地下鉄（株）
東京テアトル（株）
東京都競馬（株）
（株）東京ニュース通信社
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー
（株）東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン（株）
東京冷機工業（株）
（株）東芝
東宝（株）
（株）東北新社
（株）東洋経済新報社
（株）トータルメディア開発研究所
（株）徳間書店
戸田建設（株）
（株）トロンマネージメント
（株）ニコンイメージングジャパン
日油（株）
日活（株）
日機装（株）
日光ケミカルズ（株）
日本貨物航空（株）
（株）日本デザインセンター
日本ヒューム（株）
（株）ニッポン放送
日本レコードマネジメント（株）
日本空港ビルデング（株）
日本経済新聞社
（株）日本廣告社
（公社）日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニケーションズ（株）
（公社）日本写真家協会
（公社）日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本生命保険（相）
日本大学芸術学部
日本ロレックス（株）
野村證券（株）
（株）ハーツ
（株）博報堂
（株）博報堂プロダクツ
（株）ハセガワエスティ
（株）パラゴンホールディングス
（株）バンダイナムコフィルムワークス
ぴあ（株）
ビー・マックス（株）
北海道 写真の町東川町
（株）美術出版社
（株）ビックカメラ
平岩塗装（株）
（株）ピラミッドフィルム
（株）ファーストリテイリング
（株）フェドラ
（株）フォーカスシステムズ
（株）フジテレビジョン
（株）フジヤカメラ店
芙蓉総合リース（株）
（株）フレームマン
プロフォト（株）
（株）文化工房
（株）文藝春秋
北海道新聞社
堀江車輌電装（株）
本田技研工業（株）
毎日新聞社
丸善雄松堂（株）
マルミ光機（株）
（株）マンダム
三井住友海上火災保険（株）
三井倉庫ホールディングス（株）
三井不動産（株）
三菱製紙（株）
三菱電機（株）
明治安田生命保険（相）
ヤマト運輸（株）
（株）吉野工業所
（株）ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン（株）
ライカカメラジャパン（株）
（株）リビタ
（株）良品計画
（株）ロボット
（株）ワコウ・ワークス・オブ・アート
（株）ワコール
※ほか1法人・1個人

（令和8年10月現在・五十音順）

支援会員入会お申込先
東京都写真美術館支援会員事務局
［TEL］03-3280-0032

（株）＝株式会社、（相）＝相互会社、（有）＝有限会社、（公社）＝公益社団法人、（同）＝合同会社、（一社）＝一般社団法人、（一財）＝一般財団法人

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
［TEL］03-3280-0099　www.topmuseum.jp



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館ニュース「アイズ」127号　□発行日：2026年11月16日　□企画・編集：東京都写真美術館管理課企画広報係　□印刷・製本：株式会社八紘美術　□発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2026 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、消費税込みの価格です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はウェブサイトをご覧ください。